

第15回 福岡県美しいまちづくり賞

募集概要

経緯、趣旨

文化と感性を大切にしたい美しいまちづくりの推進を目的として、その基本となる考えや施設の方向性について、平成11年3月に「美しいまちづくり宣言」を行い、この一環として住宅及び住環境に関連するものを主な対象とした福岡県建築住宅文化賞を拡充し、新たに公共施設(公園、道路、橋梁等)を対象に加え、美しいまちづくり表彰に移行した。

これにより、良好な景観を形成する建築物、公共施設及びまちなみ並びに生活環境の美化に顕著な功績のあった活動等を表彰し、美しいまちづくりに対する県民意識の醸成を図る。

表彰の種類、応募部類

大賞、優秀賞(応募による)(財)福岡県建築住宅センター理事長賞(推薦による)

住宅の部

一戸建ての占有住宅。ただし、併用住宅で住宅部分の延べ床面積が過半を占めるものを含む。

長屋立て住宅及び共同住宅等の集合住宅並びに街区を形成する住宅群。ただし、複合用途で住宅部分の延べ床面積が過半を占めるものを含む。

一般建築の部

住宅の部及びまちなみ景観の部の対象となる建築物以外のものとする。

まちなみ景観の部

建築物、門、生垣等で構成している建築物群、公共施設(公園、道路、橋梁等)及び周辺の環境と一体となった公共施設により構成されるまちなみとする。

まちづくり貢献賞(推薦による)

福岡県内において、美しいまちづくりの推進、優れた景観の形成や保全及び生活環境の改善等に関し、県民の模範となるような功績を挙げ、かつ5年以上にわたり継続性、発展性のある活動を行っている団体又は個人。

応募期間

平成14年8月1日 ~ 平成14年8月31日

応募総数

86件

選考委員

岡田 知子 (西日本工業大学建築学科助教授)
小串 華奈 (織物作家)
織田 柳太郎 (NHK 福岡放送局放送部長)
上和田 茂 (九州産業大学工学部建築学科教授)

主催

福岡県 (財)福岡県建築住宅センター

協賛

後援

住宅金融公庫福岡支店

神 戸 純 子 (福岡県美術協会会員(洋画部))
菊 竹 清 文 (情報彫刻家)
工 藤 卓 (近畿大学九州工学部産業デザイン科教授)
境 博 義 (福岡県建築都市部長)
出 口 敦 (九州大学大学院人間環境学研究院助教授)
永 野 義 紀 (東和大学工学部建築工学科助教授)
野 中 徳 子 (福岡大学工学部建築学科助手)
藤 本 建 八 (写真家)
松 浦 佳 菜 子 (デザイナー・美術家)
松 尾 孝 司 (西日本新聞社編集局文化部長)
委員長 副委員長(50音順・敬称略)

都市基盤整備公団九州支店
福岡県住宅供給公社
(社)福岡県建築士会
(社)福岡県建築士事務所協会
(社)福岡県建設業協会
(社)福岡県宅地建物取引業協会
(社)九州住宅宅地経営協会福岡県支部
(社)日本建築家協会九州支部
(社)日本建築学会九州支部
福岡県ゆとりある住まいづくり協議会

受賞作品

福岡県美しいまちづくり賞

大 賞

受賞作品

City Cube

【住宅の部】

建築主 : 大石 知子
設計者 : 大石和彦建築アトリエ
施工者 : (株)甲斐建設
所在地 : 福岡市早良区西新
竣工年月 : 平成 14 年 3 月





写真撮影:岡本 公二

設計趣旨

この建物は9.46m角の正方形になっており、1階部分はRC造、2階より上部はS造となっている。プラン中央部は3層を貫く光の筒となっている。2階南側道路面にはデッキを設け、半透明のガラススクリーンとした。スクリーン側面はオープンとし、住まいの手の気配が感じ取れるようになっている。都市の中でのキュービクな空間を通して、自然と街との関係を柔らかく感じ取りながら、快適に生活できる建物を目指した。

講評

密集住宅地でしかも高層マンションと相対する敷地であれば、自己完結的で閉鎖的な箱に向かうのはいわば必然的である。しかし、設計者は建物前面を半透明のガラススクリーンで覆うことによりその閉鎖性を和らげると共に、夜になればスクリーンを通してぼんぼりのように明かりが外に漏れ、都市の一隅を照らす絶妙な標とした。都市景観への貢献の一つの形を示している。3層の内部空間は、中央の螺旋階段を中心に流れるように空間が連続し、立体的な家族のコミュニケーションを促しており、快い生活感が漂う。2階デッキから左右に望む遠くの緑も心地よい。この作品は、閉鎖性と開放性の対立の解決を目指した都市型住宅の一つの典型として高く評価される。

福岡県美しいまちづくり
賞

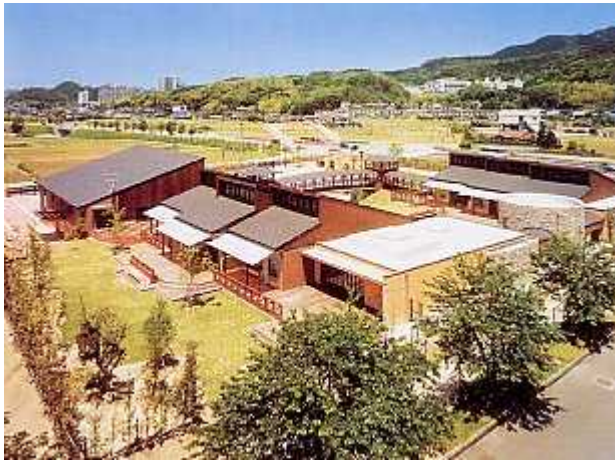
大賞

受賞作品

篠栗幼稚園

【一般建築の部】

建築主：篠栗町
設計：(有)永田建築事務所
施工者：末永・勢門特定建設工事共同企業体
所在：糟屋郡篠栗町金地
竣工年月：平成14年3月



設計趣旨

敷地は南北西三方を山に囲まれ、市街地が広がる福岡平野を東に望むことができ、篠栗町の地勢的特徴を把握させることを可能とした。計画当初からこの場所の力を有効利用することを意図した。園舎は大きく教室棟、遊技・管理棟に分かれる。遊技棟は現状敷地の起伏をそのまま利用した階段状の床を持ち、園児たちの遊び場になっている。場所の力から誘発される園児たちの空間体験は、かけがえのない原風景となって記憶されるだろう。



写真撮影：Nスタジオ 辻 清志

講評

敷地やその周辺から立ち上がってくる気とでも言って良いようなものに導かれて形やデザインが生まれてくることは、建築家ならばしばしば経験することである。そして、そのように土地の潜在力を源泉として出現した建築は見る者にある種の迫力や感動を与えずにはられない。作者はこのことを場所の力と語っている。しかし、この場所の力を的確に引き出し、それを造形に結びつけたのは、紛れもなく作者の力技であり、そこに建築家の存在が示されている。土地の高低差と方位軸が交差する視覚の変化を手がかりに紡出された浮遊感に富む内外部空間は、感性を育むことが求められる幼稚園にあってこそ相応しいものとなっている。

福岡県美しいまちづくり
賞

大賞

受賞作品

川辺の家

【住宅の部】

建築主 : 中村 雅之
設計者 : (有)設計機
構ワークス
施工者 : (株)藤匠住
宅
所在地 : 北九州市八
幡東区清田
竣工年月 : 平成 14 年 3
月





写真撮影:寺沢 雅典

設計趣旨

春の桜、夏の蛍のきれいな川辺。川の土手の延長のような中庭のスロープを通り玄関がある。まちと敷地とを優しく閉じ、敷地の中に川の土手(中庭)を取り込み、全ての部屋が明るく開かれている。螺旋状につながるスキップフロアーを進むにつれプライベートな空間へと移行する。最後のテラスでは川辺に戻り、川の音を聞きながら、風にふかれ、中庭と遠くの山を望む。一万冊の本と、古いまちと、川と、山に囲まれ至福の時間を過ごす。

講評

オーダーメイドの服を作るような感覚で住宅の設計がなされるべきものと考えれば、間違いなくこの家は、その典型をなすものであろう。特に、その内部空間の構成は住人の個性的な生活を丹念に皮膜化しており、建築が人格さえ有しているかのごときである。しかし一方、道路側のファサードに木製の格子を多用することにより、中庭をはじめとする敷地内部の情景が格子の間から透けて見え、公私の柔らかな結合を実現すると共に、外に対して柔らかな表情を創り出している。閉じながら開くという都市型住宅のあるべき手法の一つのかたちが示されていて好感がもたれる。

福岡県美しいまちづくり賞

優秀賞

受賞作品

薦野の家

【住宅の部】

建築主 : 安谷 雅克
設計者 : (株)松山建築設計室
施工者 : (株)緒方組
所在地 : 古賀市薦野大井手
竣工年月 : 平成 13 年 11 月

設計趣旨

周囲の自然と対話できる住宅、愛犬達がストレスを感じない住空間をどう構築出来るかが最大のテーマであった。施主と共に土地を探し、桜並木と川の水音があるこの土地を選んだ。人間と犬たちの領域を無くし、お互いの存在を感じ取れるよう平屋建てを採用。それぞれの空間を自由に移動しオープンに暮らせるよう、引き戸の採用や愛犬達のベットルームやトイレを設け、エントランスには愛犬の出迎えスペースを用意した。



写真撮影 : 石井 紀久

講評

川畔の桜並木越しに見えるこの家は、かなり以前からその場にあるかのように端然と建っている。設計者が施主と一緒に土地を探し求めた末にこの敷地が選定されたとのことであるが、その時点でこの家のデザインの基本は決まったのであろう。黒い皮膜に包まれた特異な外観にもかかわらず、すっかり周囲の風景に溶け込んでいるのはその証拠である。動物と家族の共生を目指す施主のニーズにもよく応え、内部空間と外部空間が適度に貫通しあう軽快な作品に仕上がっている。建具をはじめとして諸種の納まりにも工夫がみられ精度は高い。全体的なすきのなさから感じられる堅苦しさが解消されればさらに居心地の良い家になったであろう。

福岡県美しいまちづくり
賞

優秀賞

受賞作品

みつみ老健併 設 グループホー ム八重桜

【一般建築の部】

建築 : 医療法人 福
主 満会
設計 : (有)山田デザイ
者 ン研究室
施工 : 三井建設(株)
者 九州支店
所在 : 福岡市東区西
地 戸崎
竣工 : 平成 13 年 12
年月 月



設計趣旨

痴呆対応型高齢者共同住宅として計画。少人数の痴呆性高齢者がケアを受けながら、出来るだけ自立して生活する。計画するに当たり、高齢者がなつかしいと感じる空間や空気を創り出すこと、施設ではなく「家」に近い事をテーマとした。建物内外の仕上げは、出来る限り天然素材を使用するよう心掛け、四季が感じられる庭



写真撮影: 石井 紀久

を設けた。この癒しの空間が、少しでも痴呆の進行を遅らせるよう願って設計した。

講評

近年痴呆性老人向けのグループホームは随分増えてきたが、どのような空間づくりをすれば安らかに過ごすことが出来る環境が得られるか、まだまだ手探りの状態といってよい。この施設の設計者は、ひなびた温泉宿がもつ疲れた旅人を包み込むような独特の優しさを求めて、木造民家風の内部空間をつくることによってこの課題に応えた。特別な技術を駆使したわけではないが、確かに居住者にぬくもりと安らぎを提供している。献身的な職員の世話とあいまって、居住者が安心して生活している光景には一種の感動さえ覚える。

福岡県美しいまちづくり
賞

優秀賞

受賞作品

高見三条

【まちなみ景観の部】

建築：(株)新日鉄都市
主 開発八幡開発センター

設計：(株)醇建築・まち
者 づくり研究室

施工：新日本製鐵(株)
者 八幡製鉄所

所在：北九州市八幡東
地 区高見

竣工：平成11年7月
年月



設計趣旨

「高見三条」戸建地区は、人と自然が共に生き生きと暮らす「桜と水辺とふれあいの街」をテーマにした住宅開発です。配置計画は隣戸間のコミュニケーションを大切に、みち広場、せせらぎ等を計画。住宅計画は建築協定等に基づき、デザインコードを設定しつつも、入居予定者と各設計者の個性を尊重した自由な発想を大切に、「ゆるやかな統一」のもとに、多彩なデザインや多様なバリエーションの建物や外構が設計された。



講評

それぞれ独特の個性を有する独立住宅群により織りなされ、多用な表情を見せるこの住宅地において、設計者は建物の外壁素材や色彩さらに道路に面する敷地囲いや門などに対して実にきめ細やかなデザインコードを定め、多様性の中にも群造形としての統一感を醸成することに腐心した。この事業は、グランドデザインを決めたマスターアーキテクトとそのパートナーおよび個々の建築家の協同作業の成果であるが、中でも両者の間に立って調整作業を粘り強く実践したパートナーの役割は高く評価されると共に、今後における建築家の新しい職能を示唆するものとして注目に値するものである。

福岡県美しいまちづくり賞

まちづくり貢献賞

八女福島伝統的町並み協定運営委員会

平成6年12月、八女市中心部の伝統的町並みが残る12町内会の住民は、「景観の保全」「住環境の向上」を目指した、まちづくり協定を締結した。(424世帯、締結率74%)

さらに平成7年5月、この協定による住民主体のまちづくりを具体的に進めるため、各町内会、建築士、町並みガイドの代表で構成する本協定運営委員会(委員33名)を発足させ、「建築物の修理・修景相談」「住民啓発」「空き屋(店舗)活用事業」などを行政と連携しながら

ら取り組んでいる。

福岡県美しいまちづくり賞

(財)福岡県建築住宅センター理事長賞

松快園ケアハウス豊の里【一般建築の部】

講評

急傾斜地に建つ階段状の住棟群とその頂きに聳えるように立つ住棟によって構成されたこの建築は、地域のランドマークとも思わしき迫力のある形をみせている。しかし、ひとたびその敷地内に入ると、居住者の交流が自然に生まれやすい仕掛けが巧妙に仕掛けられていて、高齢者への温かい眼差しが感じられる。住戸内部にあっては、限られた面積ながら昼間過ごす場と就寝する場を分けるなど、基本的な生活への配慮も徹底している。

建築主 : 社会福祉法人福祉松快園
設計主 : アトリエ美山
施工者 : (株)青木建設九州支店
所在地 : 遠賀郡水巻町吉田南
竣工年月 : 平成13年7月

